

Newsletter



附属学校ニュースター

第21号・2015年5月26日

就任のご挨拶

附属幼稚園 功刀 俊雄

学園前で電車からホームに降りると、保護者と並んで歩く園児たちに出会います。私の登園時間はたいてい園児たちの登園時間と重なるのです。当然のことながら、「おはようございます」、「おはよう」と挨拶を交わしながら園に向かいます。皆が皆という訳ではありませんが、中には「くぬぎせんせい、おはようございます」と名前呼びかけてくれる園児もいます。朝の挨拶だけでなく、園内のあちこちで子どもたちが呼びかけてくれて、その度にこちらの顔がほころびます。



教職員は非常勤の方々を含めて20名。4月初旬には全員で歓迎会を催してくれました。大学に勤め始めて30年、このように全ての職種の人々が集う会は初めての経験です。このあたりに附属幼稚園パワーの源があるのではないかと思います。それと4月末に開かれた誕生会。その月に生まれた園児たちのお誕生を祝う会ですが、同じ月に生まれた教職員が出し物を演じます。4月は「三びきのこぶた」の二人芝居、脚本・演出・大道具などの工夫に加えて、園児たちとの即興的な掛け合いもあって、園児たちが大歓声をあげていました。子どもたちの心をとらえる凄さを感じました。

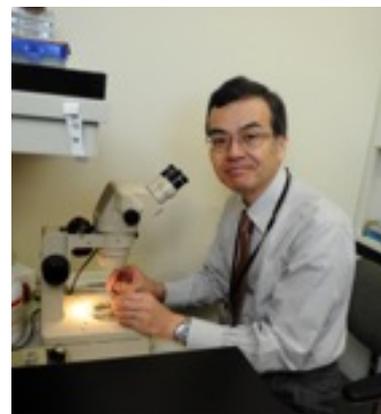
（この一文を書いている）今日は育友会・後援会の役員会がありました。議題は5月末の親子遠足についてです。バス7台を連ね参加者が330名を越える大規模な行事の段取りを保護者の方々で綿密に打ち合わせていました。安全面を含めてその困難さは想像できることと思います。保護者の方々には常日頃から物心両面で幼稚園の教育研究を支えていただいています。

教職員はもとより、園児と保護者の方々に支えられて園長職を楽しくスタートさせていただきました。今後も引き続きよろしく願いいたします。

就任のご挨拶

附属中等教育学校 渡邊 利雄

4月より附属中等教育学校長をお引き受けることになりました。普段は研究室にこもり、遺伝子の働きをああでもないこうでもないといひねくり回している生活から一変して、このような責任のある立場をお引き受けすることは私の人生で初めてのことで、小心者の私はどうなることかとドキドキしておりました。さらに思い起こせばうん十年前、小学校の担任の気まぐれから某国立大学付属中学校を受験させられ、くじ引きで落ちて家まで1時間以上とぼとぼ歩いて帰って以来、附属学校への近寄りがたい思いを抱いてもおりました。



この1ヶ月、吉田・武田両副校長の献身的な御助力により、始業式、入学式、職員会議、台湾の姉妹校台湾中山大附属高校の来校、PTA・教育講演会総会、柳汀会総会、と怒涛のごとく続く多くの大切な行事を大過なく乗り切ることができました。これらの行事では、本校を日ごろから支えていただいております、柳汀会会長の小田成子様、PTA会長の萩原清明様はじめ皆様の温かく、ひとかどならぬご支援を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

入学式の祝辞や姉妹校訪問での英語と中国語での歓迎の挨拶などなど得難い貴重な経験を積ませていただき、恥ずかしがり屋の私も、人前で話ごとによりやく少しは慣れてきたように感じております（あくまでも自讃系の判断です）。さてまだ数は少ないものの、職員会議や生徒の活動のいくつかにじかに触れさせて頂きました。大学では昨今失われつつある皆で作ら上げようとする熱気のようなものがここ附属中等教育学校ではまだまだ健在のように思え、嬉しく思えます。今後とも、本校が目指す教育へ微力ながらも貢献できればと思います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



幼稚園・小学校入学式

幼稚園と小学校は、今年で4回目の入園入学式を合同開催し、幼小一貫教育を主張しています。

新1年生は、担当の6年生と手をつなぎ、舞台から入場します。舞台の上で担任の先生に名前を呼ばれ、新1年生は「はい」と返事をします。ちょっと不安な子ども、隣で手をつないでくれているお兄さんお姉さんに促されて、がんばって返事をします。新1年生は、立派に小学校デビューを果たしました。

3歳と4歳の新入園児は、お母さんお父さんに手をつないでもらって入場します。べったり甘えておひざにもたれかかる子もいますが、甘えられるのも小さい間だけです。私たちは、微笑ましく見守ります。担任の先生が新入園児の名前を呼ぶと、大きな声で返事ができる子もいます。

入場が終わると、校長先生の祝辞があります。次に6年生がおめでとうの言葉を言い、続いて、5、6年生が歌で入園入学を祝います。私の目の前に座っていた新入園児が、「もう終わり？」と言うぐらい簡素な入園入学式です。しかし、新1年生は、入学式の後、保護者と担任が話をしている40分間、ペアの6年生と一緒に学校探検をします。私たちは、この活動も含めて入学式と考えています。子どもが自ら学ぶ小学校の学習生活に入る大切な時間です。

昨年より、附属幼稚園の1学級の定数を、30人から24人にしました。来年度からは、附属幼稚園から48人が一貫教育として進級してきます。そして、22人を新たに募集して70人が小学校で学習を始めます。

初等教育前期（3歳・4歳）、初等教育中期（5歳・1年・2年）、初等教育後期（3年～6年）の階段が完成してきました。

（副校長 谷岡義高）

中等教育学校入学式

中等教育学校入学式を4月9日に挙行政致しました。晴れて123名の入学が許可されました。

昨年より器楽部有志が入場の行進に合わせて演奏するということになり、今年もヘンデルの「水上の音楽」が演奏される中、新入生が入場しました。

武田副校長の開式の辞で始まり、国歌斉唱、新入生氏名呼上、学校長式辞、新入生歓迎の言葉、新入生代表の挨拶、学友の歌斉唱、学年主任・クラス担任紹介、閉式の辞と滞りなく式は終了しました。

今年度着任された、渡邊利雄校長からは、次のような話が新入生に対してされました。

「妖精を見るには妖精の目がある」というSF作品の言葉から、物事を行うには「ある種の型」を身に付けることが必要であると読み替えることができる。中高6年間をかけて「型」をしっかり身に付けなさいと激励されました。さらに、サン＝テグジュペリの「星の王子様」から、「もし船を造りたいなら、皆を呼び集め、木を集めさせたり、仕事を割り振ったり、命令したりはしないことだ。そんなことより広大で無限な海へのあこがれを語ればよい」という言葉をお祝いとして新入生に贈られました。

最後に、渡邊校長から新入生の学年を担当する先生方が紹介されました。学年主任は、数学科の横弥直浩先生、A組担任には創作科（音楽）の多賀秀紀先生、B組担任には創作科（家庭）の永曾義子先生、C組担任には英語科の井上真唯也先生が壇上にて紹介されました。

入学式終了後は、毎年、グラウンド土手の桜並木の下で学年集合写真を撮影しています。今年は、桜の開花から満開になるのが早く、葉桜になりつつある桜の下での撮影となりましたが、123名の笑顔がこぼれる記念写真が撮れました。これからの成長が楽しみな123名の入学式となりました。

（副校長 吉田 隆）

4月から小学校に着任しました！

小学校 教諭 薄田 太一



本年度、大阪府の小学校から本校に着任しました薄田太一です。研究分野は「しごと」(社会科・生活科)です。学生時代に長岡文雄先生の実践を学んで以来、附属小学校は私の実践の根本であり、憧れの存在でした。そんな歴史と伝統のある本校に、勤務することができたことを大変嬉しく思うと同時に、身の引き締まる思いです。

新しい出会いを大切にして、「奈良の学習法」に学び、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

小学校 教諭 武澤 実穂



はじめまして。本年、奈良女子大学附属小学校に着任しました武澤実穂です。専門は体育です。昨年までは私立学校で小学生と高校生の体育を受け持っていました。奈良女子大学、同大学院においてスポーツ科学分野を学び、縁あって伝統ある本校に来させていただきました。右も左も分らず、悪戦苦闘の毎日ですが、学校生活の中で子どもたちの優しさや、学習に取り組むひたむきな姿に触れ、癒されながらも背筋の伸びる思いです。一日一日を大切にしながら、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。

小学校 教諭 中垣 州代



この度、奈良女子大学附属小学校教諭として着任しました、中垣州代です。公立の中学校と小学校で教諭を経験し、その中で、子どもたちが英語を楽しみ、英語を使いながら自分の世界を広げ、意欲的に学ぶことができるカリキュラムや指導の在り方を追究していきたいと思うようになりました。

子どもたちが主体的、自律的に学ぶ「奈良の学習法」を取り入れた「国際」の授業づくりに専念し、コミュニケーション能力を育てていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

小学校 養護教諭 辻村 琳



はじめまして、辻村琳と申します。

6年間毎日わくわくしながら通っていた母校で、養護教諭としての仕事に携わることになり、喜びとやる気いっぱいです。小学生は心も身体も一番大きく成長する時期です。子どもたちの喜びや悩みに共感し、時には適切なアドバイスができるような、ほっと安心できる保健室にしたいと思っています。

朝の元気しらべから始まり、パワフルな1日を過ごしている子どもたちが、健やかに伸びて行けるようサポートしたいです。♪走れ走れ子鹿よ 野をけて♪「奈良の子ども」の歌のように。

どうぞよろしくお願いいたします。



「学びやすい学習環境創りに全力を注ぎたい」

小学校副校長 谷岡 義高

本年度、奈良女子大学附属小学校の副校長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

38歳の時に本校に着任して、早22年の月日が経ちました。私が大阪の小学校から転勤を決意したのは、「子どもたちと59歳まで授業ができるよ」と言う、当時の先輩の言葉でした。その言葉通り、昨年まで、理科教育、しごと学習、なかよしの活動、奈良の学習法を、子どもと共に追究することができました。

副校長になると、これまでのように、直接子どもたちと学習を創ることはできませんが、子どもたちが学びやすい学習環境創りに全力を注ぎたいと思います。また、本年度より4年間は、文科省の研究開発学校の指定校に選ばれ、幼小一貫教育をさらに進めたいと考えます。さらに、臨海合宿も新しい宿泊地で行いますので、安全に細心の注意を配り、新たな臨地学習を創造します。

毎年2月に開催している研究発表会には、最近では千人を超える先生方が来校されます。来校者の先生方は、本校の主体的に学ぶ子どもの姿にあこがれて何度も来られます。

私たちの学校は、「主体的に学ぶ子どもの姿を問い続けること」が、最大の課題です。大正期よりぶれない独自学習の精神を大切に守り続けたいと考えます。



「新たな立場で学校づくりに力を合わせていきたい」

小学校主幹教諭 堀本 三和子

学級担任としての二十数年間を終え、これからは新たな立場で仕事をさせていただくことになりました。

どうぞよろしくお願いいたします。

今は一年生の気分です。いったい何をどのようにしたらよいのか、まだ見えてきていません。今のところは自律的に仕事できていないので、指示されたことをこなすのに精一杯の毎日です。これまでの先輩方が、私たちが気持ちよく働けるように学校の環境を整え、支えてくださっていたのだということ、この立場になって改めて感じています。

学級担任のときは、目の前の学級の子どもたちをいかに伸ばすかだけを考えて、学習や生活を創ってきました。けれども、これからは学校全体の子どもたちのことを考えながら、学校をつくっていかねばなりません。伝統を守りつつ、新しい学校づくりに、みんなで力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

先日、一年生の男の子が、学校たんけんで見つけてきたダンゴムシを見せてくれました。私は、6年前に一年生の子どもたちと一緒にダンゴムシを追究したことを思い出し、うれしくなりました。そして思わず、「ダンゴムシのおうちを持ってくるね。」と、蓋付きカップを取りに走りました。一年生のフレッシュな感性に触れて、清々しい気分でした。



「学び続ける教師でありたい」

中等教育学校 教諭 井上 真唯也

本年度より附属中等教育学校に着任しました井上真唯也と申します。教科は英語を担当しています。

前年度までは、故郷福岡で県立の高校教諭として勤務していました。生まれ育ったのは、太宰府ということで、古くより奈良との交流があり、そのことに、少なからず縁を感じています。また、奈良のまちが醸し出す風情は、太宰府と共通するものがあり、親近感が湧きます。

私は、本校が大切にしている「自由・自主・自立」という教育哲学、ならびにそれを実現する教育実践に心惹かれ、こちらにやって参りました。授業や学級での活動などを通して生徒と関わるなかで、本校が守ってきた哲学が、単なる飾りでないことを改めて理解いたしました。

こちらでの新生活が始まり、はや1カ月が過ぎました。関西弁ネイティブの方々に囲まれた言語環境、歴史情緒溢れる街並みの中で、新たな経験を得ることができているという大きな幸せを感じています。

教育は日進月歩で変化をします。教師にとって大切なことは、そうした変化に柔軟に対応すべく、学び続けることだと思っています。未来に生きる生徒にとって本当に必要な学びを支援するため、私自身、学び続ける教師でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。